

魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 吉野珠恵 所属: いわき市立中央台北小学校 記録日: 2023年 2月28日
キーワード: 書き困難、気持ちのコントロール、微細協調運動

【対象児の情報】

・学年

小学校 4 年

・障害名

情緒障がい

・障害と困難の内容

- ・医療機関を受診し、服薬もしているが、保護者は医師から診断名を告げられていない。
- ・低学年の時には、友だちとのトラブルで、攻撃的な言動が多かった。現在もたまにキレ暴れるが、何事にも無気力になっている状態である。
- ・板書を写すことは、気が付けばノートに自主的に書き始めるが、他の児童と一緒に始められない。
- ・何を書いているかわからない文字(特徴を捉えられない)が多い。ひらがなとカタカナを意識していない。
- ・ローマ字を覚えられないので、ローマ字表記ができない。タブレットでローマ字入力することができない。
- ・国語の教科書の音読は、流暢ではないが、聞き取れる。文末を読み違えてしまうことが多い。
- ・読めるが内容の理解は難しい。
- ・資料を探したり活用して、自分で発表原稿を作る学習はできず、担任と一緒に考えまとめてもらい、清書した。
- ・偏食で、肥満。教室の移動で息を切らしている。
- ・注意されたと感じると、怒る。絵や明文化して事情を端的に話すと、「確かに」と言って落ち着き、機嫌を直せることもある。
- ・「バカだから」と言って、自分の頭を叩くこともある。

【活動目的】

・当初のねらい

他校からの通級なので、担任と情報を共有しながら、少しでも前向きに学習に取り組める手だてを一緒に考えていきたい。

・実施期間

令和 4 年6月から令和 5 年 2 月

・実施者

吉野 珠恵(特別支援教育士)

・実施者と対象児の関係

通級指導教室の担当教員

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ① 興味の対象が You tube のゲーム実況視聴やゲームをすることであり、関心の幅が狭い。しかし恐竜にも興味があり、記憶に残り、知り得た知識を滔々と話すことがある。
- ② 微細な手指使った動きが困難で、ひらがなやカタカナの違いがはっきりしない文字を書く。本児も意識せず書いていると思われる。
- ③ 学校生活の中で、怒りを感じ、友だちに向かっていくことがあるが、どんな事・言動に怒りを感じたのか・嫌だったのか、忘れてしまったり、説明することができない。

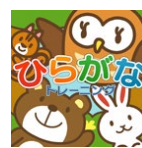
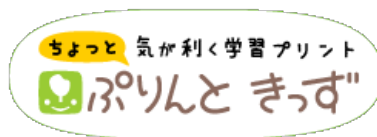
・活動の具体的内容

- ① 興味を持ち漢字の学習を取り組むため『図鑑漢字ドリル 恐竜』、興味の幅を広げる『DropNews』、食育ゲームとして『カードゲーム レシピ』



- ・図鑑ドリルやワークシートは写真を撮り、拡大して iPad にタッチペンで書き、書字の負担を減らした。
- ・偏食のため野菜や食物の名称を覚えていないので、カードゲーム『レシピ』で食材に関心を持たせる。
- ・『Drop News』では、気候や最近のニュースを端的に知ることで、興味の幅を広げるきっかけにする。

- ② 手指を使った動きトレーニング『マナー豆』、運筆ワークシート『ぷりんと きっず』『ちびむすドリル』、運動やストレッチなどを行う『RingFit Adventure』



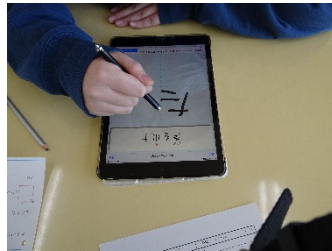
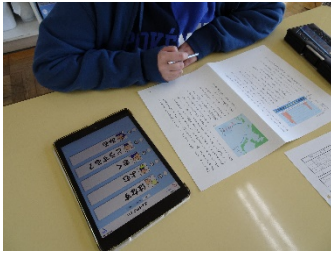
- ・細かい作業が苦手なので、『マナー豆』を使って楽しく作業やゲームを行う。
- ・運筆ワークシートは、iPad にタッチペンで書き、握り方に気を付けながら書字指導を行う。
- ・楽しく運動に取り組めるよう『RingFit Adventure』で体を動かす。

- ③ 学習スケジュールの提示と感情を説明するときのツール



・対象児の事後の変化

今年度本児は、家族の感染症等で通級する回数が少なく、事後の変化まで検証することができなかった。当初、家庭とiPadでつなぎ、放課後の生活スケジュールの改善を図ることも考えていたが、そこまでの取り組みに至らなかった。



通級時には、やることをiPadで提示することで、自分が今何を学習しているのか、また終わったことにチェックをいれることが励みとなり、場面の切り替えがスムーズになったように思える。

「先生、漢字の読みドリルをやりませんか?」と自主的にアプリを活用することを提案してくる場面や漢字の読みを調べたいと、意欲的に取り組めることがみられるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

今回は学習意欲が落ちている本児にとって、iPadを活用したことが、学習意欲の回復の助けになったと考えている。

「こんな字なんですけど、何て読むのかな?」というつぶやきに、『常用漢字 筆順辞典』アプリで、「あっ、この字です!」と自分のおぼろげに書いた漢字の正解がわかったときの喜びは、次の学びにつながると思える瞬間であった。

・エビデンス(具体的数値など)

検証まで至りませんでした。

・その他エピソード(画像などを含めて)

あの場面と思いつくことがありますが、記録の蓄積が今後の私の課題だと思いました。